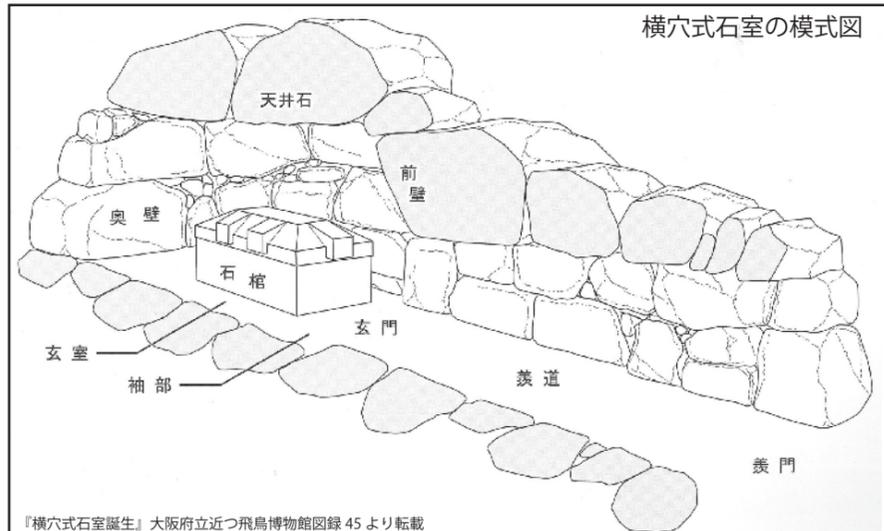


大藪古墳群の位置

養父市養父地域には、菟崎・養父市場・大藪という「やぶ」の地名をもつ集落があります。一般的にこの付近が、古代の養父郡養父郷の中心地であると考えられています。

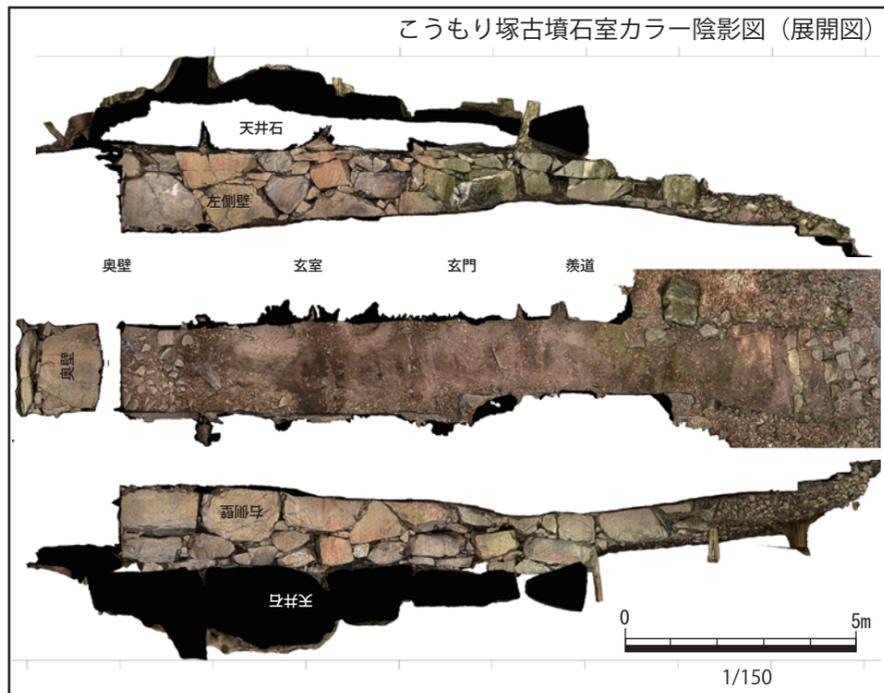
大藪古墳群は円山川右岸の大藪集落にあり、円山川に面した丘陵南斜面に古墳が造られています。この地は北に山を背負い、南は円山川が流れ、風水思想に合致しており、特別な墓域として選地していると考えられます。



横穴式石室

大藪古墳群は、石棺や木棺を埋めて埋葬施設とする道林古墳群（推定5世紀後半から6世紀前半）を除き、「横穴式石室」をもつ古墳です。

横穴式石室は、横穴形の埋葬施設で、側壁・奥壁を石材で構築し、その上に大きな天井石を乗せて玄室として、その前に通路（羨道）を設けます。但馬地域では7世紀初頭を中心とする時期に盛行します。



こうもり塚古墳

こうもり塚古墳は、古墳の墳丘盛土の上部が失われ、5枚の大きな天井石が露出しています。古墳の周囲を含め畑として後世に大きく改変を受けており、墳丘の形状は良くわかりません。現在の長方形の地割りなどから、一辺25～30m程度の方墳であると考えられてきました。

横穴式石室は全長12.5mで、奥壁幅1.7m、高さ1.8mです。羨道と玄室を区別した片袖式（右袖）の横穴式石室です。

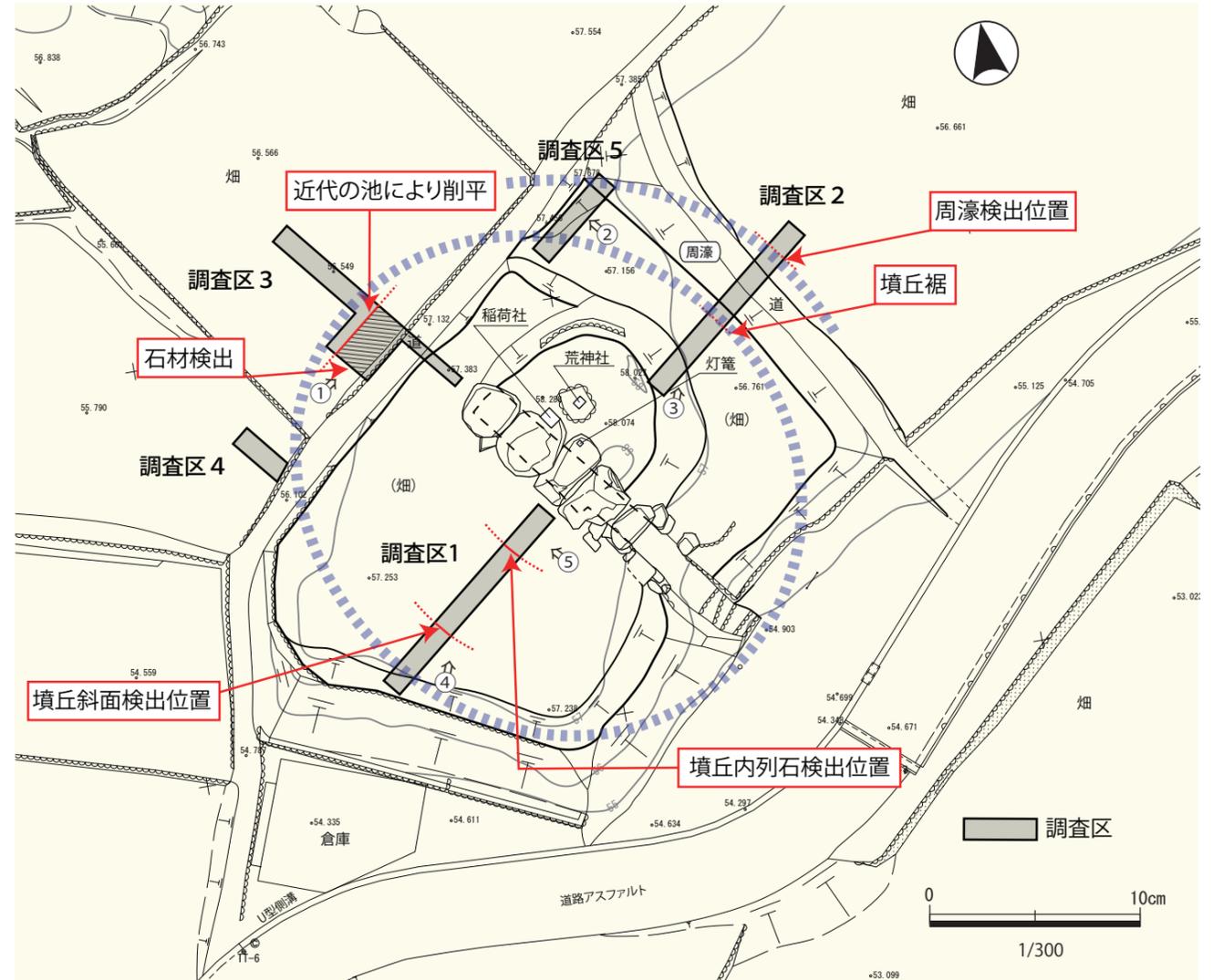
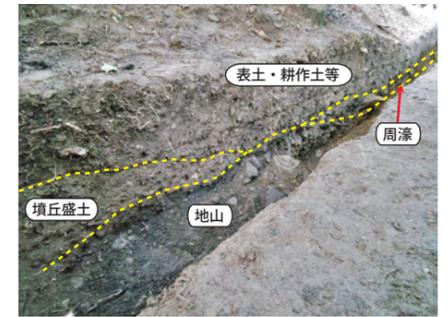
①調査区3 石材の検出状況



②調査区5 墳丘と周濠



③調査区2 墳丘と周濠

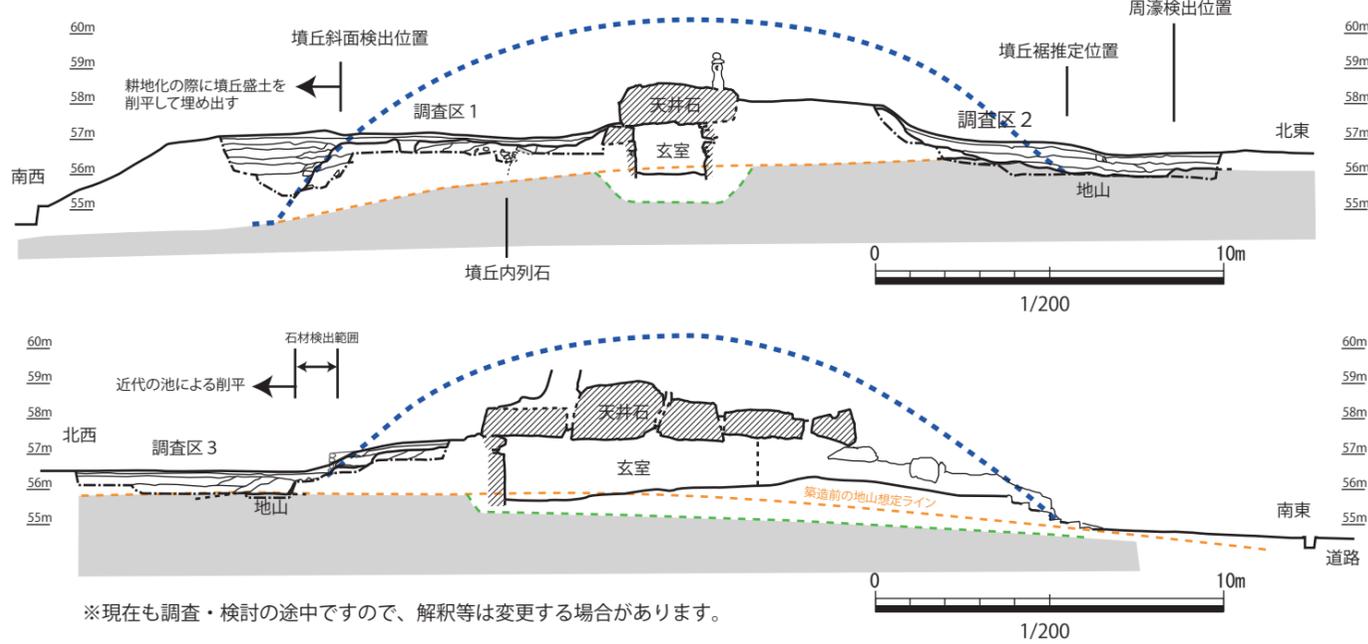


④調査区1 墳丘斜面と後世の埋立



⑤調査区1 墳丘内列石検出状況

【こうもり塚古墳の断面模式図】



※現在も調査・検討の途中ですので、解釈等は変更する場合があります。

調査区1では古墳の外側に盛土して土地を拡張している状況や古墳の内部に積まれた墳丘内列石を確認しました。列石は若干円形に並んでいます。高さは50cm以上で、4段以上に石を積んでいます。「列石」は横穴式石室墳に見られる墳丘構築技法で、墳丘の保護や装飾、祭祀空間確保などの目的があると考えられており、墳丘内列石は埋葬空間を厳重に保護するためとする説があります。

調査区2・5では古墳築造前の基盤層（地山）と、墳丘の裾部、周濠の範囲を確認しました。これにより墳丘の規模や形状を検討することが可能となりました。

調査区3では大正時代以降につくられた池のために、古墳の裾部が直線的に削平されています。その内側の墳丘表面では、10～40cm程度の石材が敷き詰められたような状態を確認しました。墳丘の構築に関わる列石と考えています。

こうもり塚古墳は、大藪古墳群の大型古墳のひとつとして広く知られており、現況から方墳と考えられてきました。今回の調査により後世の改変状況が明らかとなり、こうもり塚古墳は方墳ではなく直径約20～25m程度の円墳である可能性が高くなりました。

現在、養父市は朝来市とともに、4世紀後半から7世紀中頃に南但馬で築造された大型古墳を「(仮称)朝来・養父古墳群」として、国指定文化財を目指して学術的な重要性を調査しています。大藪古墳群の調査について一層のご理解・ご協力をお願いいたします。



こうもり塚古墳の墳丘内列石



箕谷3号墳(八鹿町小山)の「列石」

令和6年度
県史跡こうもり塚古墳の発掘調査について
2024(令和6)年11月30日
養父市教育委員会 歴史文化財課
〒667-1105 兵庫県関宮 613-6
TEL: 079-661-9042 FAX: 079-667-2277

令和6年度 県史跡こうもり塚古墳の発掘調査について ～大藪古墳群の大型横穴式石室墳～

大藪古墳群は、養父市大藪にある古墳時代後期から終末期(6世紀から7世紀頃)を中心とする大規模な古墳群で、東西約1.5km、南北約1kmの範囲に150基ほどの古墳が造られています。

大藪古墳群には、但馬を代表する4基の大型古墳があります。東から、こうもり塚古墳、塚山古墳、禁裡塚古墳、西ノ岡古墳です。また、大藪古墳群のなかには、さらにいくつかの古墳のまとまりがあり、東から小山古墳群、道林古墳群、野塚古墳群、穴ヶ谷古墳群などがあります。

大藪古墳群の4基の大型古墳は6世紀後半から7世紀中頃にかけて禁裡塚古墳、塚山古墳、西ノ岡古墳、こうもり塚古墳の順番で次々と築造されました。これらの古墳は、但馬地域でも最大級の横穴式石室をもつ古墳であり、この時期、養父地域に但馬最大の政治権力が存在した証拠といわれています。

今回の調査は、この大型古墳のひとつであるこうもり塚古墳の規模・形状を明らかにすることを目的として実施したものです。



露出したこうもり塚古墳の横穴式石室

